



～ 学校便り～

なつめ 3月号

〈編集・発行〉
鹿児島市立喜入小学校
〈発行日〉
令和3年3月19日

明るい未来の訪れの願いと心よりの感謝と



学校のツルコザクラが満開です

校長 内村 英人

「専門家さえ答えを持たない予測不可能と言われるこれからの社会においては、多様な見方・考え方を知り、自分なりの考えをもち、他者と協働して、よりよい答えを創り出す力」を身に付けることが重要であると言われていました。このような力を獲得させるために、どのような経験を積みませたらよいか、

授業はどうあるべきかについて、「こんな時であっても」と、あるいは「こんな時だからこそ」と、私たちなりに模索してきた1年でした。250名の子どもたちは、この1年間、様々な学習や体験を通して成長してきました。難しい問題に出会った時、友達とけんかをしてしまった時、解決の道を探そうとする姿がありました。あきらめずに目標に向かって、解決に向けて取り組む姿がありました。時には、私たちが想定した以上の姿を見せることもありました。そのような時、「子どもを侮ってはならない。」と、つくづく思います。

3月は、子どもの1年間の成長の様子を振り返りながら、進学・進級への希望と心構えをもたせる時です。また、卒業生との別れや転校する友達との別れ、そして、職員は現メンバーと仕事ができる最後の月でもあります。

喜びと寂しさが交錯する中、6年生はもうすぐ本校を巣立っていきます。新型コロナウイルス感染が世界的に拡大し、様々な制約を余儀なくされる中、学校のリーダーとして、一人一人が考え、自分ができること、みんなのためにすべきことについて答えを創り出すべくがんばってくれた子どもたちのために、心のこもった卒業式を行いたいと思います。式における一つ一つの所作や姿勢、言葉に「心をこめる」ことの意義を、巣立つ者として、また、見送るものとして学びながら、3月24日に向けて練習を重ねています。様々な制約の中で行う卒業式ですが、この先に明るい未来が訪れることを、いえ、一人一人が自分らしく明るい未来を築く存在となることを願って、6年生を見送りたいと思います。

さて、令和2年度が、まもなく終わろうとしています。

「道は探せ、しなやかに切り拓け、残り姿は美しく」

こうありたいと思い、経営理念として掲げてきましたが、それは簡単なことではないと実感しています。しかし、このコロナ禍に、子どもの学校生活をいかにして少しでも実のあるものにするかについて思案し工夫した本校職員に対し、そして、この状況において今年度の学年の生活をけなげに締めくくろうとしている子どもたちに対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様の物心両面にわたる御支援に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

【本年度の一事徹底事項】「元気なあいさつ」(磨く子ども：豊かな心をつくる子ども)

本年度は、一事徹底事項として「元気なあいさつ」に取り組んでまいりました。3学期には、指導を強化し、また、地域の皆様からのお褒めの言葉に後押しされて、一定の成果を得られたのではないかと考えます。次年度は、新たな一事徹底事項を設定したいと考えておりますが、あいさつの指導については、今後も継続してまいります。御協力ありがとうございました。

抵抗力を高めましょう (十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事)